

立命館大学理工学部 学生員 ○美馬 幸子
立命館大学理工学部 正会員 笹谷 康之

1. 研究の背景と目的

現在、2002 年から開始する学校 5 日制や総合学習導入に向け、地域との関わりの中で子どもたちのネットワークをどう強化するか模索されている。本研究では、ネットワーク形成だけでなく、分野を超えた主体間をつなぐ媒体としても効果が見込まれる、エココイン活動に着目し、以下の項目を目的とした研究を行う。

- ①子どもたちを中心とした活動にエココインを導入することでどのような効果が生まれるのか検証する。
- ②エココインを媒体として既存の団体・グループをネットワーク化するにはどうすればいいか考察する。
- ③こどもエコクラブ全国大会をきっかけに、子どもたちの活動をエココインを通して活性化させるにはどうすればいいか提案する。

2. 研究の方法と研究対象地について

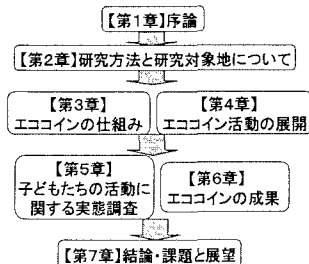


図1: 研究フロー

子どもたちの活動に関する実態調査の実施を本研究の方法とし、①滋賀県の子どもセンター②滋賀県のこどもエコクラブ③あそび隊登録者である子ども④あそび隊登録者の保護者の、4つに対して調査を行った。研究対象地の NP0 法人子どもネットワークセンター天気村は、子育てや子どもの教育をあらゆる面から支援する Intermediary として、地域の協力者や行政と連携し、活動を展開している NP0 である。

3. エココインの仕組み

天気村の「あそび隊」に登録するともらえるコインで、子どもたちが楽しみながら体験に参加し、コインを集めたり他の子と交換することで、環境や地域に対する意識づけを図るとともに、子ども同士や地域の人々との交流により、コミュニティが活発化するツールとして期待される。この活動は、滋賀県の湖国 21 世紀記念事業にも選ばれ、また草津市の公民館活動においてもコインがわたされる、等の広がりを見せている。

あそび隊登録者数: 135 人 コイン流通枚数: 約 700 枚 (2 月現在)

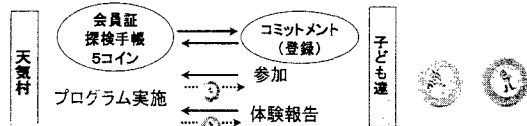


図2: あそび隊とエココインの仕組み <現在使用しているコイン> <特徴>体験活動への参加・報告毎に 1 コイン、全部

で 12 種類、コインを持っている子ども同士で交換できる、12 種類集めると企業協賛の環境グッズと交換、コインは天気村のイベント等での遊びに使える

4. エココイン活動の展開

エココイン導入前 (～2000.4)

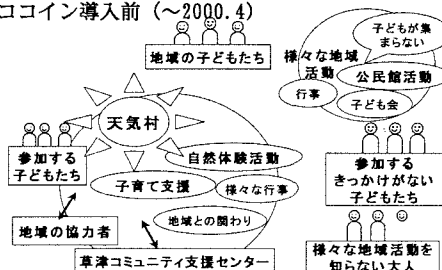


図3: エココイン導入前

子どもたち、地域活動、子どもの親、天気村の活動がバラバラに存在していた。

エココイン実践期 (2000.4.29～)

天気村の活動にエココインを導入した事で、活動に参加する子ども同士や親同士のつながりが生まれた。

エココイン運用期 (～現在)

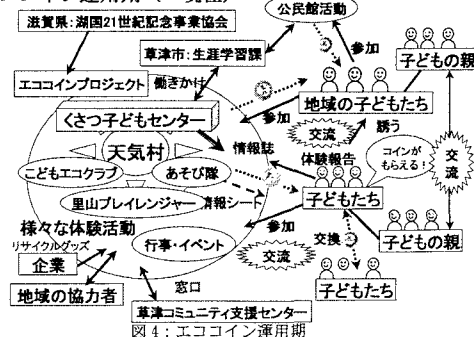


図4: エココイン運用期

エココイン活動を広げようとする中で、行政とのつながりができ、地域での参加の場が増えた。

5. 子どもたちの活動に関する実態調査の結果

I あそび隊登録者の子どもたち 27 名に対して <エココインに関して>

- ①コインを集めるのが楽しい (93%)
 ②コインをもっと集めたい (89%)
 ③天気村以外の活動でもらえたら参加したい (85%)
 ⇒①②③より、参加が促進されていることが分かる
 ④活動にコインがあったほうが楽しい (85%)
 ⇒コインによって活動の魅力がアップしている
 ⑤コインがもっと広がればいいと思う (96%)
 <活動全体に関して>

- ⑥年齢の違う子や大人と話す機会が増えた (93%)
 ⑦年齢の違う子や大人と一緒に遊ぶのは楽しい (93%)
 ⑧以前よりもまちが好きになった (85%)
 ⇒地域への意識付けがされた

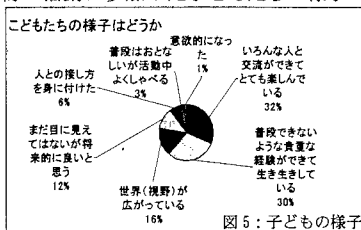
II あそび隊登録者の保護者 28 名に対して

<エココインに関して>

- ①子どもが楽しめて良いと思う (86%)
 ②コインの導入で天気村の魅力がアップした (71%)
 ③公民館等地域活動へのエココイン導入は良い (93%)
 ④エココイン活動がもっと広がれば良いと思う (93%)
 ⇒③④より：参加機会の増加が期待されている

<活動全体に関して>

⑤あそび隊の活動に参加した子どもたちの様子

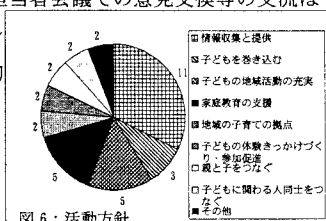


⇒コインとともに自然の中で遊ぶ等普段できないような活動内容や、活動中に地域の人や大学生と交流できることも魅力になっている

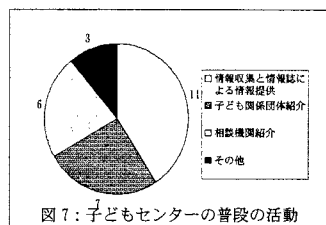
- ⑥以前よりも地域の事や環境について考える (61%)
 ⇒子どもを通して地域や環境への意識付けがされた
 ⑦また行事に子どもを参加させたい (93%)

III 滋賀県の子どもセンターに対して (13 のうち 12)

- ①情報の Web 上での提供：野洲・八日市・水口・彦根
 ②42%が県の事務担当者会議での意見交換等の交流はあるものの、センター同士の日常的な交流はない
 ③活動方針・目的



- ④普段の活動
 ⇒情報提供以外にも
 子どもの地域活動の充実等を目的としながらも、実際に子どもたちに働きかける活動を展開しているところは少ない

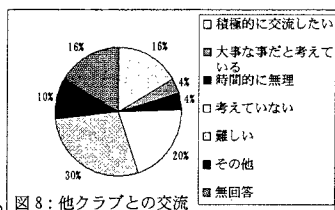


⑤エココイン認知度 (17%)

IV 滋賀県の子どもエコクラブに対して (回収率 45%)

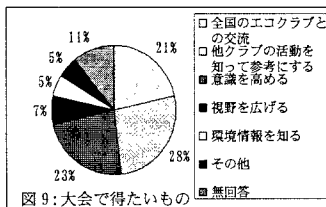
- ①他のクラブとの交流がない (84%)
 ②他のクラブとの交流についてどう考えているか

交流はしたいが
 時間がないことや
 学校内での活動
 の場合の制限等
 から交流が難し
 い、と考えている



③子どもエコクラブ全国大会への参加で得たいもの

他のクラブの活動
 内容を知り、今後
 の活動の参考にす
 る事や、全国のク
 ラブとの交流、を
 希望している



- ④年度毎の登録であるため活動を継続しにくい
 ⑤エココイン認知度 (30%)

6. 結論・今後の課題・展望

- エココイン導入によって子どもたちの体験活動への参加が促進される
 □エココインによって天気村の魅力がアップした
 □子どもセンター、子どもエコクラブともに交流が図られていない (交流するきっかけがない)
 □エココインの認知度が低い
 ■エコクラブ全国大会をエココインの社会実験の場とし、体験を通して楽しさを知ってもらい、今後の子どもエコクラブの活動の活性化と交流の促進を図る。
 ■エココインの PR 活動を充実させ、子どもに関わる活動を行う団体に、ボランティアを通じて研修を行い、オフライン、オンラインともに団体に合った導入方法や運用方法について意見交換し、継続することでネットワーク化を図る。